

平成19年3月期 中間決算説明会



スターホールディングス株式会社

STAR HOLDINGS CO.,LTD

<http://www.star-ir.co.jp>

2006年11月

■ 目次

業績概況	1
収益の推移と内訳	2
資産の推移と内訳	3
費用の推移と内訳	4
部門・媒体別の業績	
商品	5・6
為替	7・8
証券	9
立て直しに向けての対策	10
グループ概要	11

※資料中の財務データについて

当社は2004年12月1日にスターフューチャーズ証券株式会社の株式移転により、設立された持株会社となります。本資料の財務データは、以下の通りとなります。

- ・2004年3月期中間以前
⇒ スターフューチャーズ証券株式会社「単独」
- ・2004年3月期通期から2005年3月期中間まで
⇒ スターフューチャーズ証券株式会社「連結」
- ・2005年3月期通期以降
⇒ スターホールディングス株式会社「連結」

2005年3月期中間以前の財務データは、当期のそれとは連続性が高いものの、完全に連続しているものではありません。従いまして、2005年3月期中間以前の財務データは、あくまでも経年比較のための参考データとなりますことをご了承ください。

■ 業績概況

スターホールディングス株式会社
STAR HOLDINGS CO.,LTD

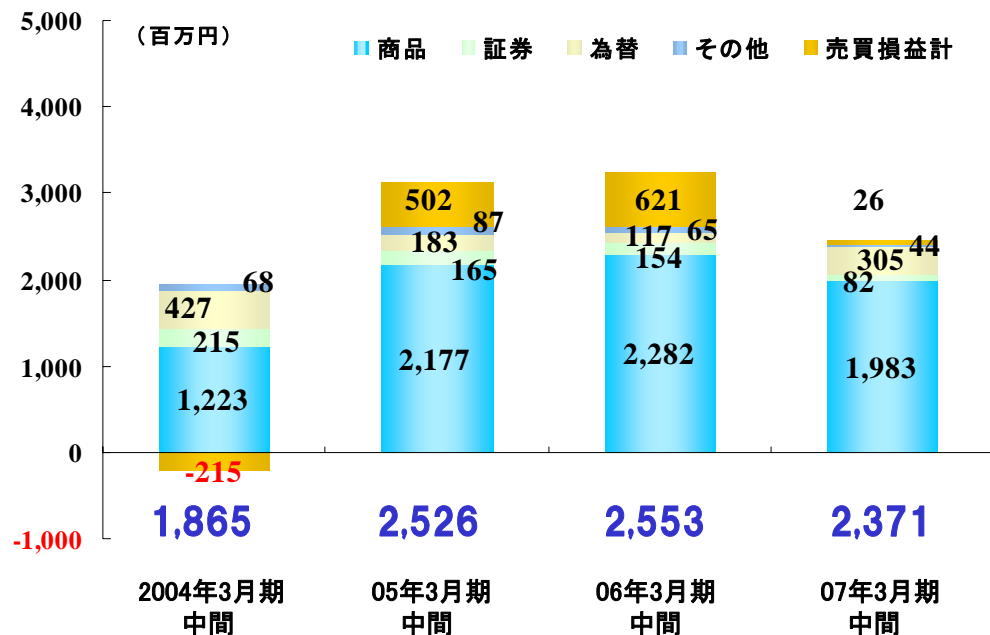
為替業務が大幅増加、商品、証券、自己売買が減少

単位：百万円

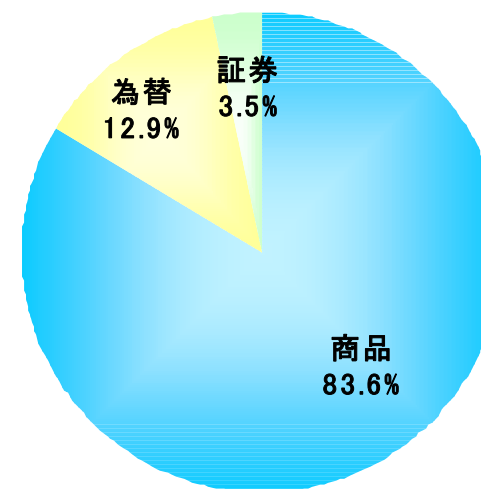
	07年3月期中間 (連結)	06年3月期中間 (連結)	前年同期比
営業収益	2,443	3,241	24.6%減
受取手数料	2,371	2,553	7.2%減
(商品業務)	1,983	2,282	13.1%減
(為替業務)	305	117	161.1%増
(証券業務)	82	154	46.8%減
売買損益	26	621	95.7%減
その他	44	65	31.8%減
販売費及び一般管理費	2,619	2,784	5.9%減
営業利益又は損失(△)	△176	456	—
経常利益又は損失(△)	△143	487	—

■ 収益の推移と内訳

□ 収益の推移



□ 当中間期連結受取手数料の事業別内訳



■ 商品、自己売買部門の収益減少

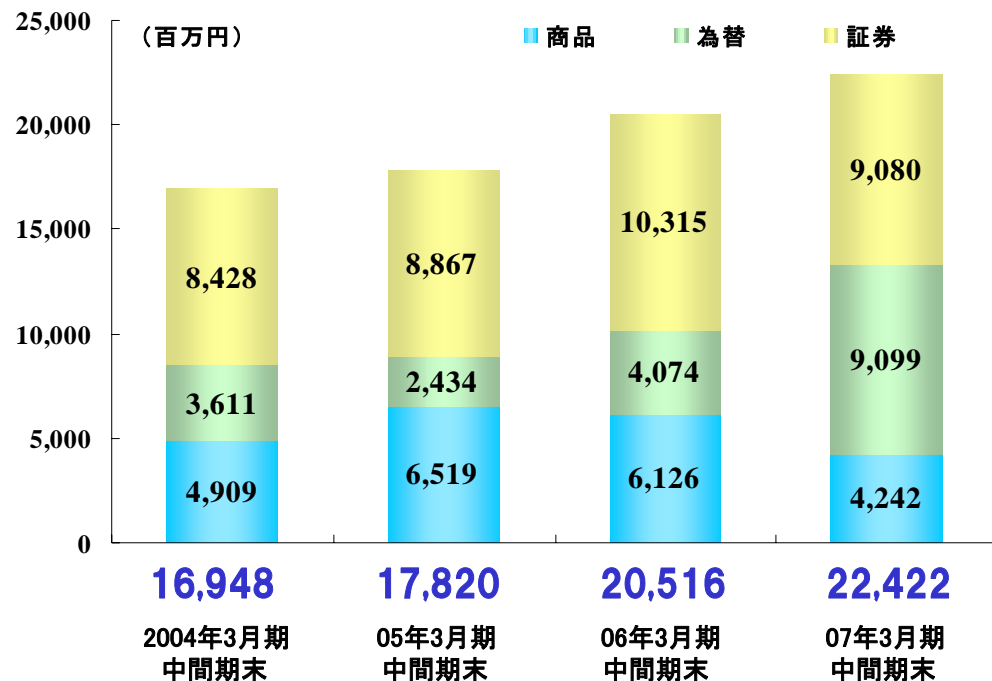
- ・商品業務の減少要因 ⇒ 国内市場における売買高の減少傾向(前中間期 104万枚 ⇒ 当中間期 95万枚)
- ・自己売買部門の減少要因 ⇒ 損失計上リスクの低減目的のため、取引量の厳正な管理を行ったことが主要因

■ 為替業務収益の改善

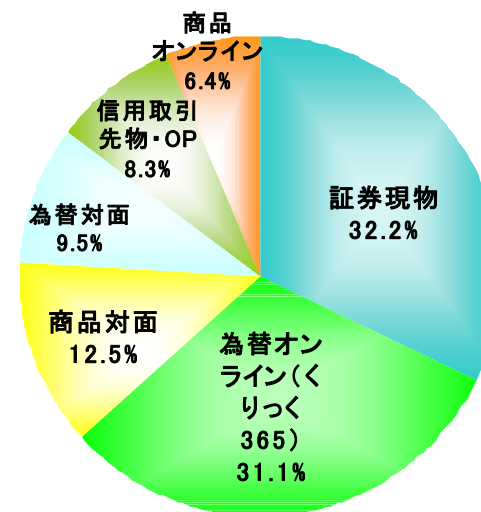
「くりっく365」の収益を当中間期で236百万円(前年同期6百万円)を計上 ⇒ 為替業務の収益が前年同期比で161.1%増加。

■ 資産の推移と内訳

□ 預り資産の推移



□ 当中間期の口座別預り資産



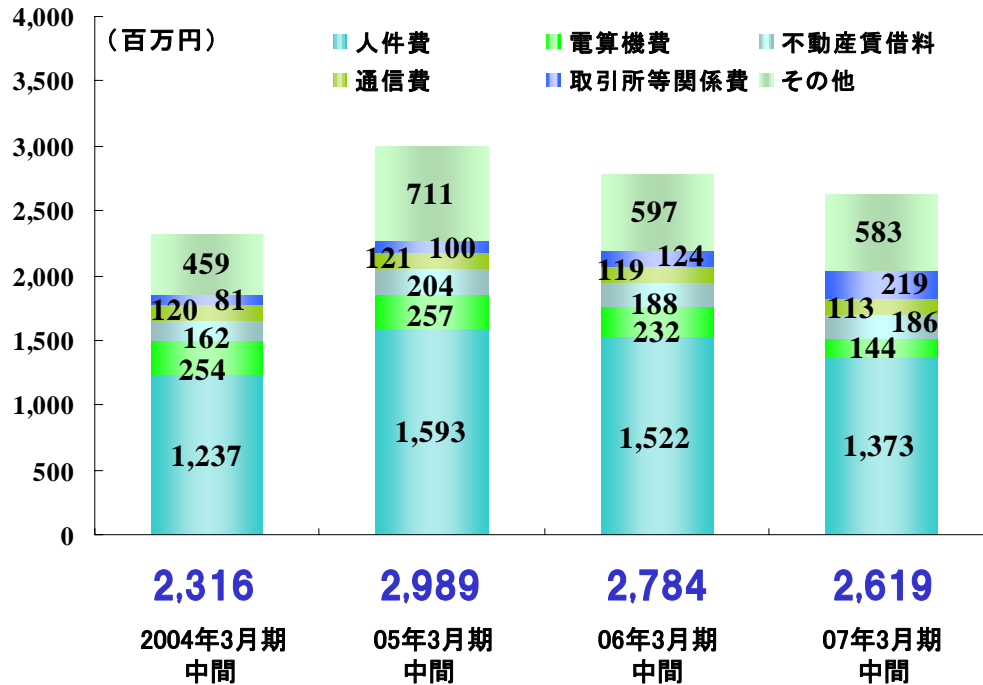
■ くりっく365(為替オンライン)の資産が増加

預り資産の前年同期比 ⇒ 為替123.3%増、証券12.0%減、商品30.8%減となり、全体としては9.3%増。

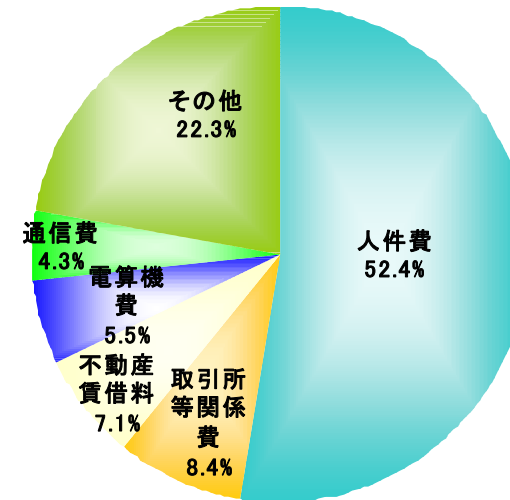
- ・為替業務の増加要因 ⇒ 「くりっく365」の預り資産の大幅増加(当中間期末6,970百万円)
- ・証券業務の減少要因 ⇒ 国内株式市場の下落による株式評価額の減少
- ・商品業務の減少要因 ⇒ 貴金属や石油などの国際商品価格の乱高下により、顧客資産が著しく減少

■ 費用の推移と内訳

□ 費用の推移と内訳



□ 当中間期連結費用の内訳



■ 増加⇒取引所等関係費

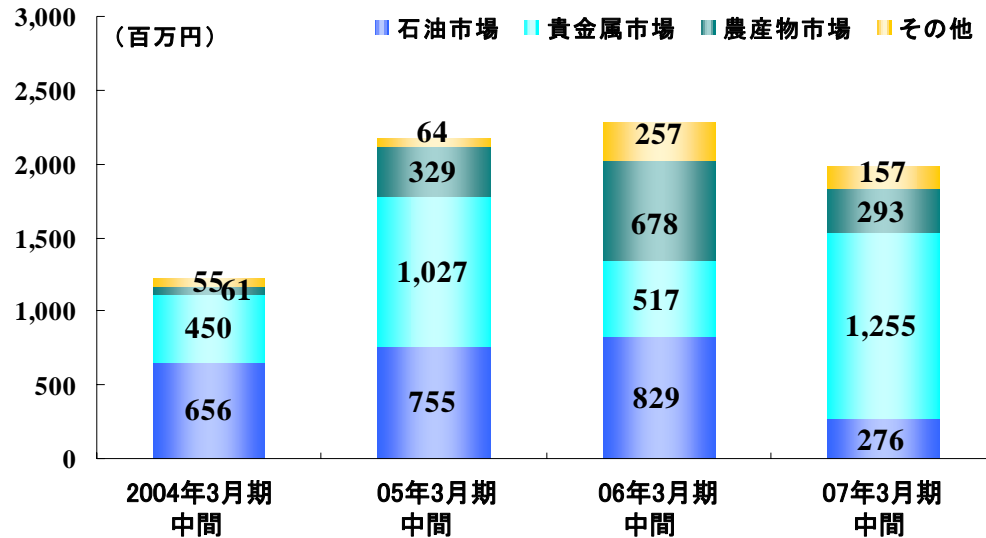
2006年9月の「くりっく365」の取引高が前年同月と比べて212.6%増加。これにより取引所等関係費が同76.5%増加。

■ 減少⇒電算機費、人件費

取引所等関係費、広告宣伝費以外の費用についてはおおむね削減。電算機費は前年同期比37.9%減、人件費は同9.8%減。

商品 業績概況

□ 受取手数料の推移と内訳

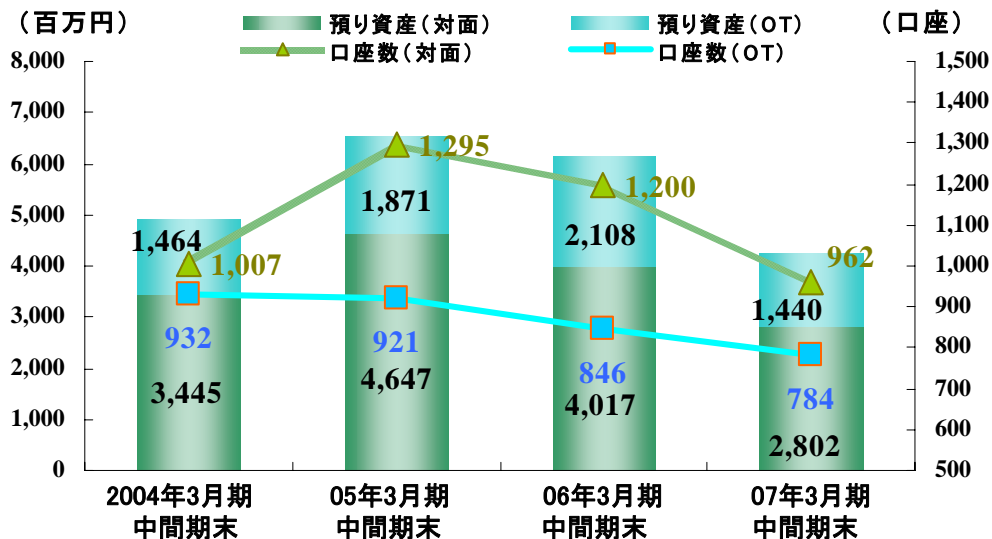


収益の状況(前年同期比、%)

農産物市場	56.7%減
貴金属市場	142.8%増
石油市場	66.6%減

貴金属が大幅増加したものの、
農産物と石油が減少

□ 預り資産と口座数の推移



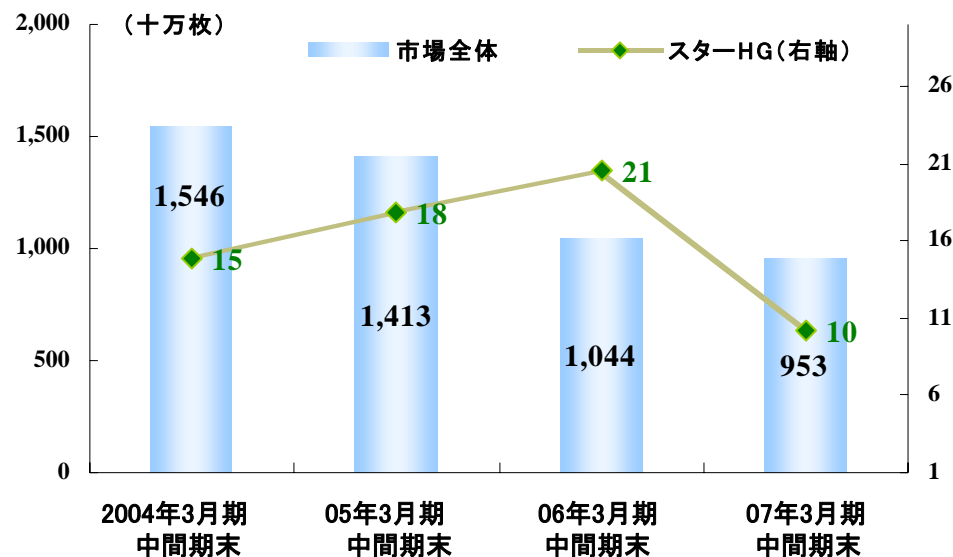
預り資産と口座数の状況 (前年同期比、%)

	対面	OT
預り資産	30.2%減	31.7%減
口座数	19.8%減	7.3%減

対面・オンラインの預り資産と
口座数が減少

商品サマリ

商品先物市場全体と当社グループ売買高比較



商品取引の売買高減少

- ・スターホールディングスグループ
⇒前年同期比で50.6%ダウン
 - ・商品先物市場全体
⇒前年同期比で26.1%ダウン
- ◎市場全体の動き以上に売買高が減少。それに伴い収益も減少

世界的な商品取引所の再編の流れ

海外: CME・CBOT ⇒ 「CMEグループ」(H19年1~3月) **世界最大のデリバティブ取引所の誕生**

国内: 関西・福岡 ⇒ 「関西商品取引所」(H18年12月)

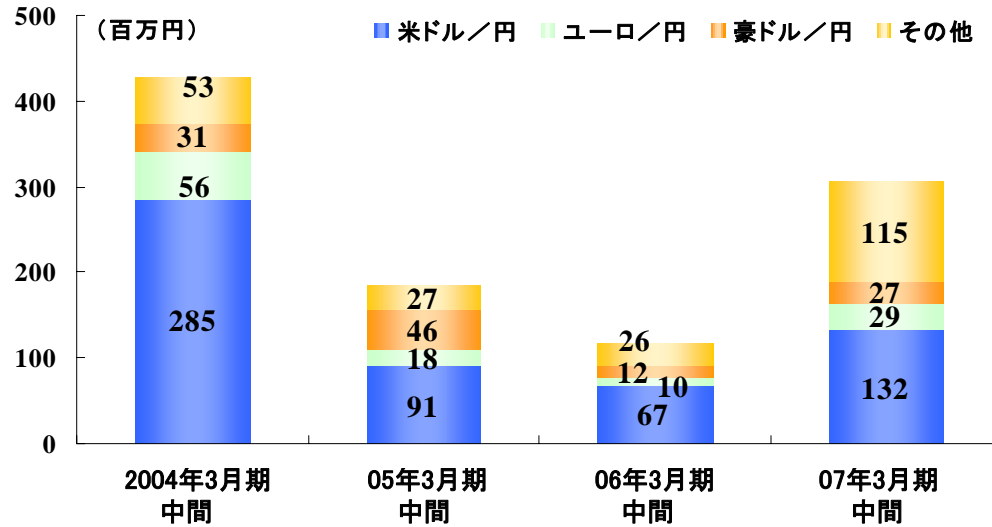
中部・大阪 ⇒ 「中部大阪商品取引所」(H19年1月) **国内の商品取引所は4取引所体制**

改正商品取引所法(行為規制や純資産額規制比率の導入)の影響が表面化

商品業界全体が大きな変革期に入り、取引所の再編と取引員の淘汰が続く

■ 為替 業績概況

□ 収益の推移と内訳

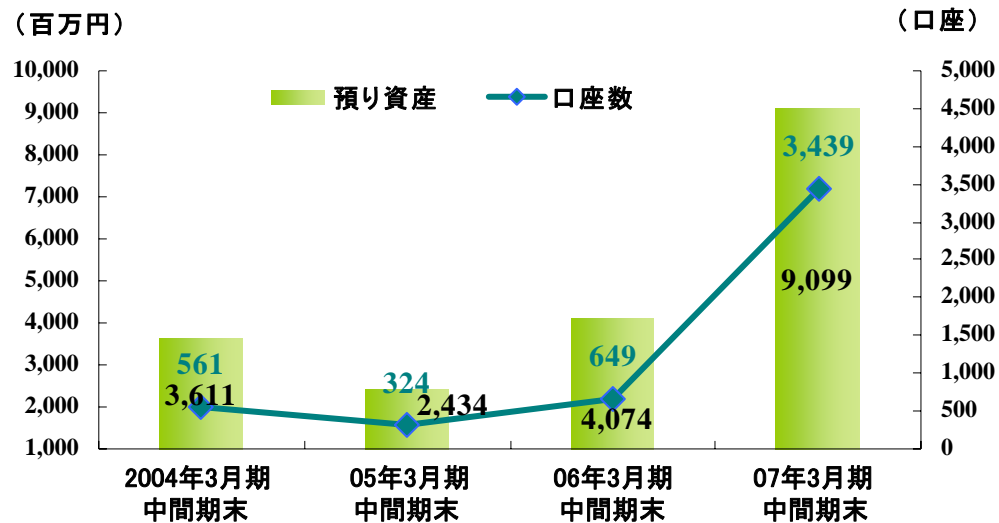


収益の状況（前年同期比）

米ドル/円	31.0%増
ユーロ/円	36.7%増
豪ドル/円	67.2%減
その他	76.6%増

くりっく365の拡大により、
各通貨が増加

□ 預り資産と口座数の推移



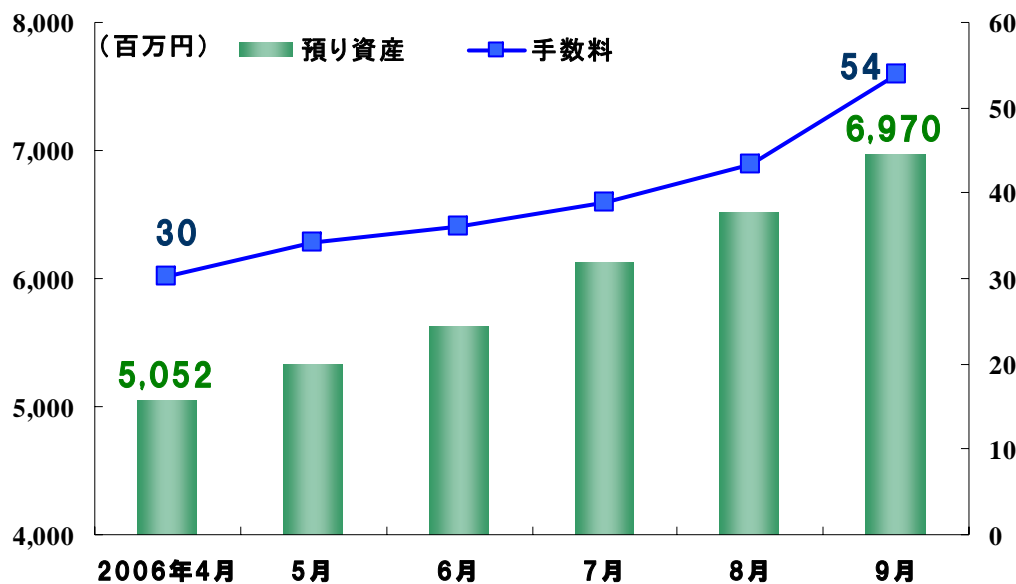
預り資産と口座数の状況 （前年同期比、%）

預り資産	67.4%増
口座数	100.3%増

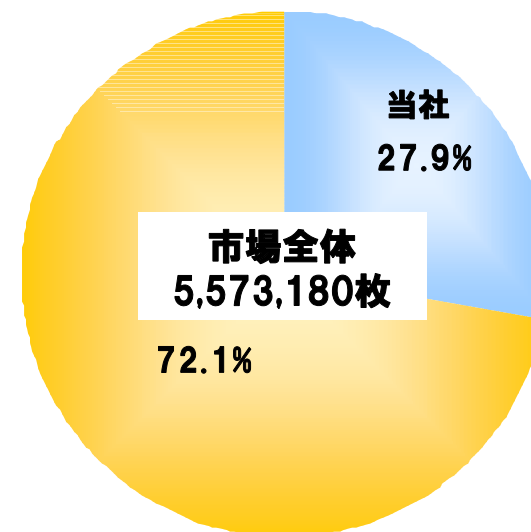
くりっく365の開始により、預り資産、
口座数ともに大幅増。

■ 為替サマリ

□ 「くりっく365」の手数料と預り資産の月次推移



□ 「くりっく365」市場シェア (累積売買高(枚数)ベース)



出所:東京金融先物取引所HP、当社データ

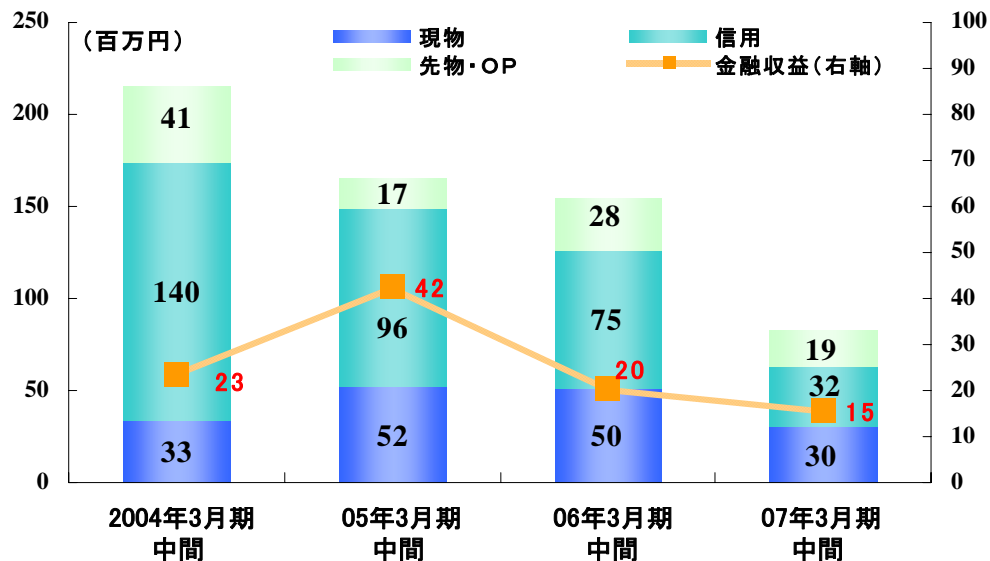
■ 市場シェアを拡大させるため、各媒体への広告展開とキャンペーンの実施、投資セミナーの開催を精力的に行う

- ・手数料 2006年4月 30百万円 ⇒ 9月 54百万円
- ・預り資産 2006年4月 5,052百万円 ⇒ 9月 6,970百万円
- ・市場シェア 2006年4月～9月 27.9%と約3割弱

今後も継続してシェアと収入の拡大を追及

証券 業績概況

収益の推移

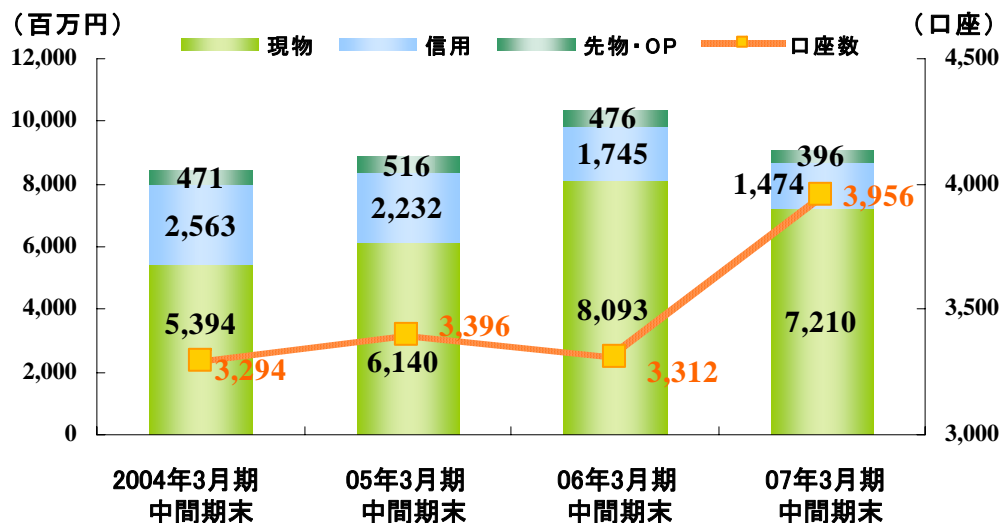


収益の状況(前年同期比、%)

現物取引	39.6%減
信用取引	56.7%減
先物・OP	33.4%減
金融収益	23.5%減

信用取引が大幅に減少し、
その他の収益も軒並み減少

預り資産と口座数の推移



預り資産と口座数の状況 (前年同期比、%)

預り資産(全体)	12.0%減
口座数	19.4%増

口座数は伸びたものの、預り資産
全体が減少

■ 立て直しに向けての対策

□ 「コスト適正化」対策

現時点での最大の課題

⇒中核事業である商品業務の手数料収入と顧客資産の急減

「コスト適正化」対策(主要子会社スターアセット証券(株)にて実施)

I 役員人事

- ① 9名の取締役を5名に減員
- ② 取締役の役名の異動
- ③ 役員報酬の返上(30%~100%の範囲)

II 効率的な支店の統廃合

従来 8拠点 ⇒ 4拠点に集約

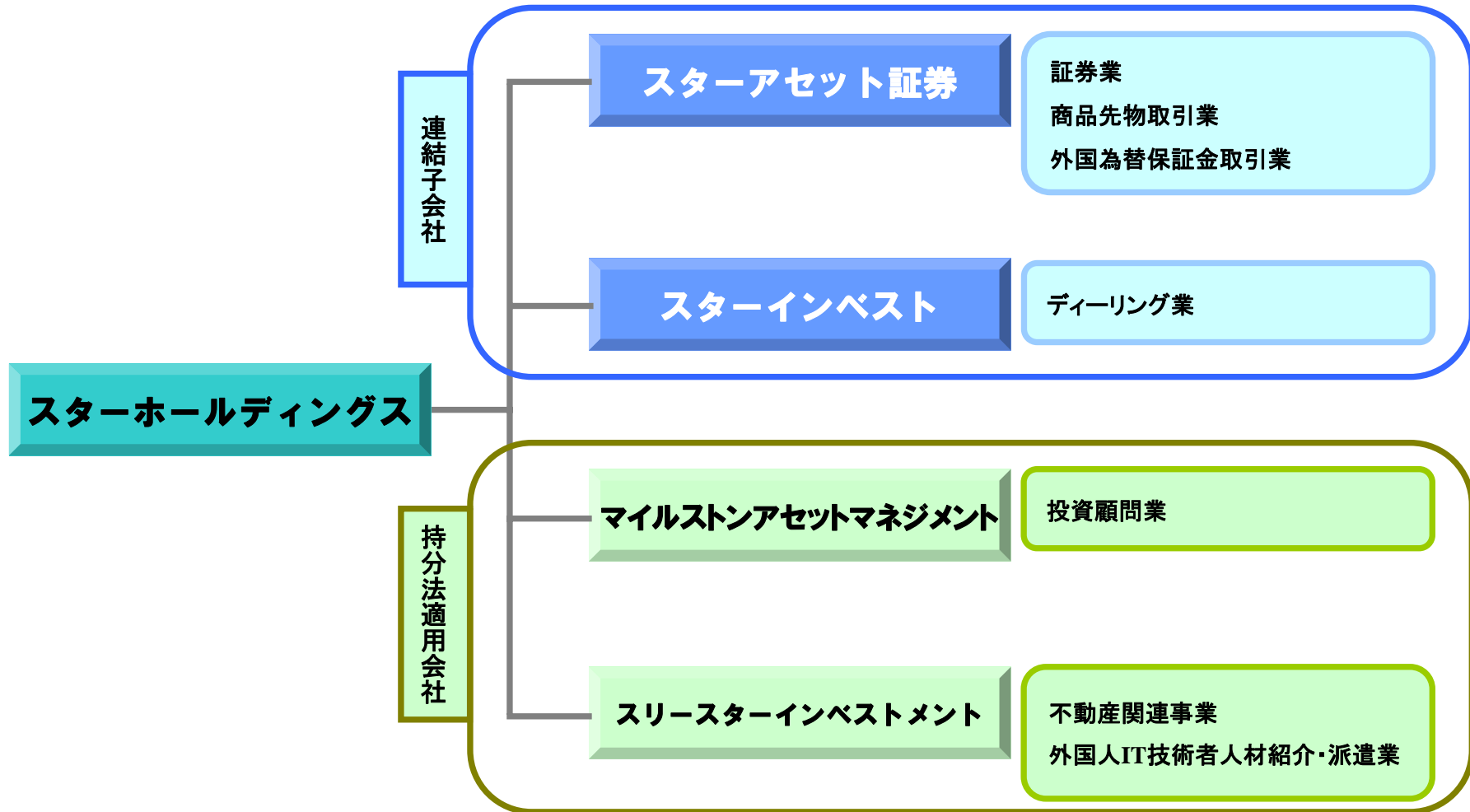
III 組織のスリム化

- ① 従来 8部・3室体制 ⇒ 5部・1室体制へ集約
- ② 営業部門において「事業部制」を廃止

「コストの適正化」により早期での収支均衡を図る

■ グループ概要

スターホールディングス株式会社
STAR HOLDINGS CO.,LTD



金融フィールドをコアとして環境変化にフレキシブルかつスピーディーに対応